



東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

万全な体制で 冬期を迎えるための議論

申5号 団体交渉

新潟地本は12月4日に申5号「2024年度の冬期の取り組みについて」に対する申し入れの団体交渉を行いました。

支社側より説明を受けた「2024年度の冬期の取り組みについて」は、この間東日本ユニオンとして要求や提言をしてきた内容も反映された一方で課題や疑問も残ることから、今冬期を万全な体制で取り組むために13項目にわたって申し入れを行っていたものです。

架線凍結への対策・対応を求める

越後線・柏崎・吉田間で架線凍結が予想される時にパターン運用を行うなどして影響を最小限とするよう求めました。

支社側はパターン運用の有効性は認められた一方で、手配簡略化が目的であることや、全てが凍結状況になる訳ではないことから難しいと回答しました。

組合側は、昨年同様放熱冷却で運休した実績があり、パターン化は一つの手段だと訴えました。



カッターパンを走らせる頻度を問うと、編成に限りがあるので回数は未定であり、上越線・信越線は臨時単行機関車での運用、またはカッターパンの試用としてE129系で運用することを考えているとしました。

◆ 昨冬、越後線で霜取りをいと大きな輸送障害とな

◆ 目的とした臨時回送電車を急遽運行したときに、定期行路を代行路として運用したため継続乗務時間が長くなったことから、カッター車を臨時で走行させる場合は代行路とせず、臨行路として乗務員を確保するよう求めました。

◆ 支社側は、乗務員が確保できれば臨時行路、確保できれば臨時行路、確保でき

実態に即した除雪のあり方について議論

◆ 今冬期におけるホーム除雪の考え方を質すと支社側は、昨年同様始発列車までに旅客の動線を含めた2両分の除雪を考慮しているとしました。

◆ その上で、期間は12月10日から3月25日までと昨年より長くし、巡回除雪の作業指定日以外でもホーム上の積雪や天候を勘案して、統括センターが臨時発注できるように体制を整えたこととしました。

◆ 各線区の最大両数について除雪対応が可能なのかを質しましたが、始発列車までに2両分を行い、順次範囲を広げて行くことと従来を考慮を示すとどまりました。

◆ 車両の入出区が出来ないと大きな輸送障害とな

◆ 架線凍結対策として信越線に臨時単行機関車を走行させる際は必ず1321M列車の前に走行させるよう求めました。

◆ 支社側は、問題認識は組合側と同じであるとして、基本は旅客運用の前に臨時単行機関車を運行すると回答しました。

対応する乗務員の安全確保を求める

◆ 乗務員によるポイント不転換対応について、試行期間での実績を質すと支社側は、2023年に平林駅で状況の確認だけを行っていることとしました。

◆ なぜ本施行としたのかを問うと、秋田支社・仙台支社が行っており、新潟支社においても本施行できると判断したこととしました。

◆ 訓練での動画視聴などを行ったことと対応可能とした支社側に対して組合側は、降積雪の中や夜間の対応、流雪溝など設備への不慣れなど、現場の不安は大きいと主張しました。

◆ 支社側は、ポイントの復

◆ 上越線・石打駅・岩原スキー場前駅間になだれ防止柵を設置するよう求めましたが支社側は、雪崩防止柵の設置は費用面と他の設備の整備を勘案することになるとして、設置する考えはないとしました。

◆ その上で、徐行の取扱いや既存の雪崩防止柵のほか、雪崩検知装置を12月10日から稼働するとしました。

安全を創り出す決意を新たに

◆ 地本執行部は12月8日「2005年に発生した羽越本線「いなほ」号脱線事故現場の慰霊碑を訪れました。

◆ 秋田支社管内において列車が雪を抱えて停車した際の人力除雪に対する教育について質すと支社側は、庄内統括センターではフローに基づき行ったこととしました。

◆ 乗務員の申告を上回る指示を行わないよう求めると支社側は、あくまでも関係社員が到着するまでの初期対応であり、絶対に無理をしないことを徹底していることと断言しました。

◆ 支社側は、ポイントの復

◆ 組合側は、本線・構内両方の除雪はパートナー会社の負担が大きいためJR社員による機械除雪も検討するよう求めました。

◆ より走行中に列車が停車してしまいうリスクが大き

安全を創り出す決意を新たに

◆ 地本執行部は12月8日「2005年に発生した羽越本線「いなほ」号脱線事故現場の慰霊碑を訪れました。

◆ 秋田支社管内において列車が雪を抱えて停車した際の人力除雪に対する教育について質すと支社側は、庄内統括センターではフローに基づき行ったこととしました。

◆ 乗務員の申告を上回る指示を行わないよう求めると支社側は、あくまでも関係社員が到着するまでの初期対応であり、絶対に無理をしないことを徹底していることと断言しました。

◆ 支社側は、ポイントの復

◆ 組合側は、引き続き雪崩に対する具体的対策を行うよう求めました。

◆ 支社側は、越後湯沢・石打間のMRによる除雪を実施するとして上で、雪崩・落雪の危険性がある場合は週単位で巡回確認を行うこととしました。

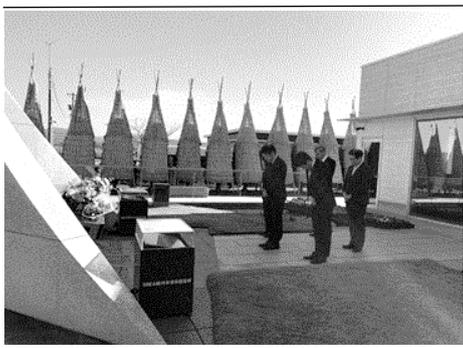
安全を創り出す決意を新たに

◆ 地本執行部は12月8日「2005年に発生した羽越本線「いなほ」号脱線事故現場の慰霊碑を訪れました。

◆ 秋田支社管内において列車が雪を抱えて停車した際の人力除雪に対する教育について質すと支社側は、庄内統括センターではフローに基づき行ったこととしました。

◆ 乗務員の申告を上回る指示を行わないよう求めると支社側は、あくまでも関係社員が到着するまでの初期対応であり、絶対に無理をしないことを徹底していることと断言しました。

◆ 支社側は、ポイントの復



◆ そのような中で労働者の視点から安全を守る取り組みの重要性はより増しています。これからは鉄道の安全確立を最重要課題に据えて、職場から労働組合の枠を超えた安全議論や安全風土づくりを全組合員で取り組んでいきます。